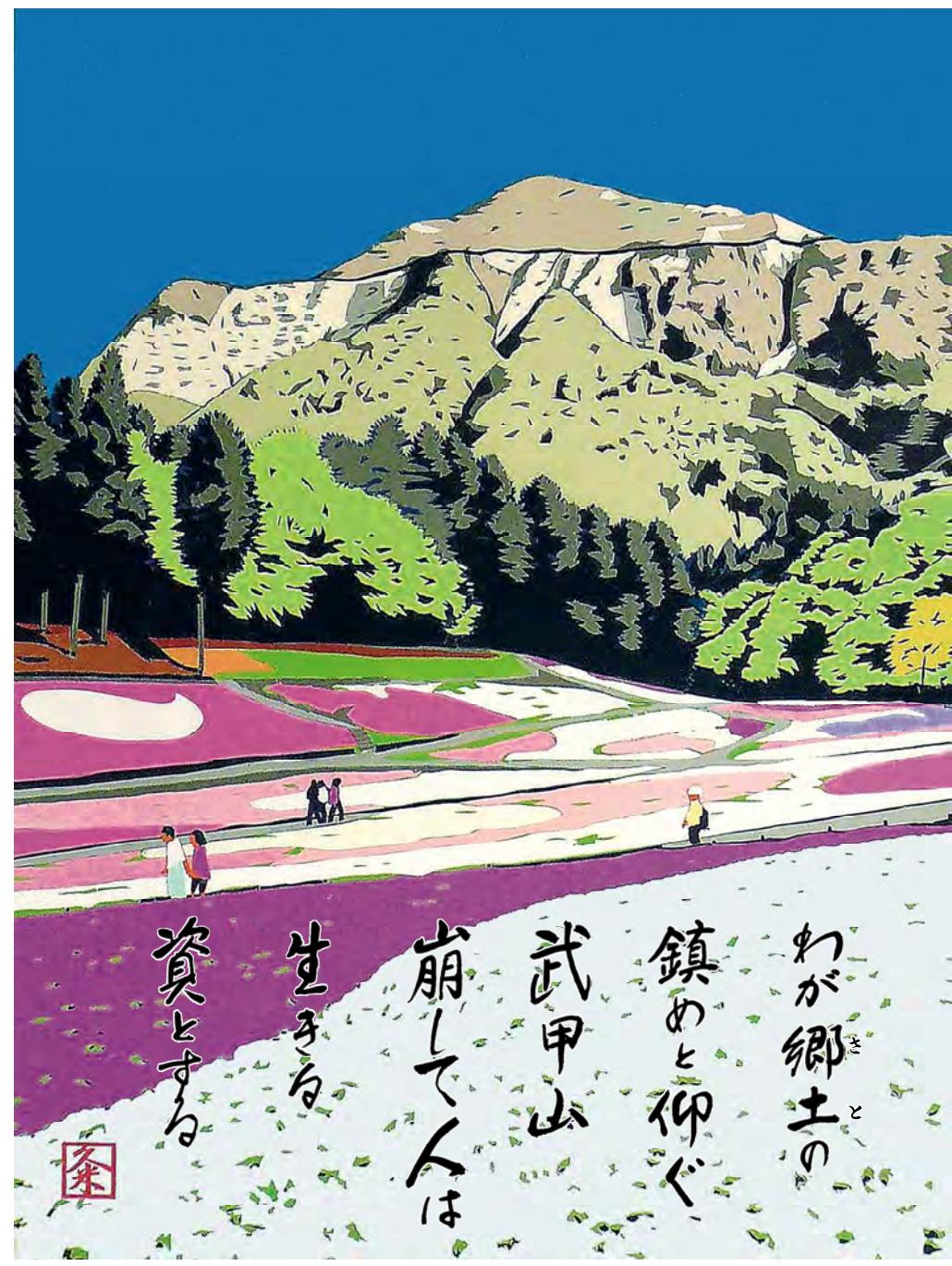


# 秩父神社社報 柞乃杜(ははそのもり)

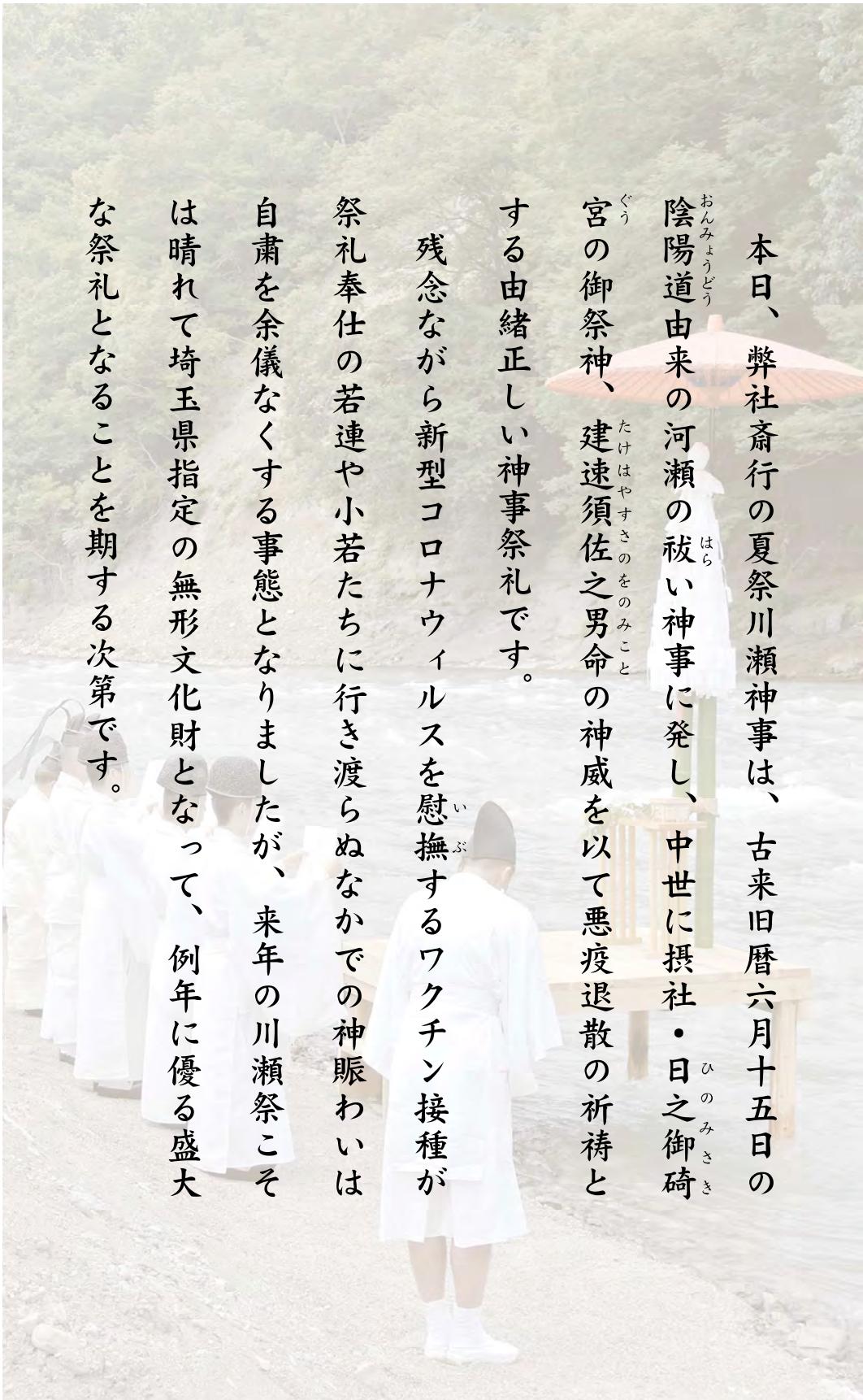
第 63 号

令和3年7月20日  
(川瀬祭)



本日、弊社斎行の夏祭川瀬神事は、古来旧暦六月十五日の  
陰陽道由来の河瀬の祓い神事に発し、中世に攝社・日之御崎  
宮の御祭神、建速須佐之男命の神威を以て悪疫退散の祈祷と  
する由緒正しい神事祭礼です。

残念ながら新型コロナウイルスを慰撫するワクチン接種が  
祭礼奉仕の若連や小若たちに行き渡らぬなかでの神賑わいは  
自粛を余儀なくする事態となりましたが、来年の川瀬祭こそ  
は晴れて埼玉県指定の無形文化財となつて、例年に優る盛大  
な祭礼となることを期する次第です。



## 解説 秩父神社(61)

杉山正司

### ◆秩父神社を巡る

#### 三口の刀剣と武藏武士(六)

これまで武蔵武士に関わる秩父神社ゆかりの三口の名刀について記してきた。今回は、三口の刀剣の系譜に連なる、当社に伝来する名刀について紹介しよう。

### 脇差 勝光・宗光

法量 長さ五一・一センチメートル  
反り ハミリメートル

#### [折返銘]

備前國住長船次郎左衛門尉  
藤原勝光 同左京進宗光

作者は、備前長船派の勝光と宗光で、二人の合作の刀剣である。初代の勝光と宗光は、兄弟といわれている。作刀時期は、文明～長享年間（一四六九～九二頃）であり、本力は初代から数代下がる戦国時代に入る末備前と称される時代の勝光・宗光の作とみられる。

形状は、鎬造、庵棟、板目肌込み、帽子が乱れ込んで少し返る。刃文は、互の目に丁子交じり。茎に折返し銘がある。

この折返し銘は、作刀当初は、茎がもう少し長かったが、時代が下がつて磨上げ（長さを短く詰めること）られたことによる。この時、当初刻まれた銘について切斷してしまったことも可能であつたが、この刀が勝光・宗光という名工の銘であつたため、銘を落とすことが惜しまれた。

一方、愛染明王も煩惱を排除し、延命息災や勝負必勝などに功徳があるとされ、直江兼続の銘文だけを残したのである。何故、長さを詰める必要があつたのかは現時点では不明である。ただ推測にすぎないが、あつたのかは現時点では不明である。ただ切先も少し詰めてある。ただ切先も少し詰めてあつたが、この刀が勝光・宗光の部分に銘のある茎を折り返し、この銘だけを残したのである。

兜の愛の前立てには有名である。かつて当社に奉納された太刀・短刀とも刀身に梵字の彫物があつた。この脇差の梵字、そして意味。さらに備前長船派の系譜を引く刀工の作という共通点がある。このことから本貫地を離れず秩父に生きた丹党大河原氏の心が、この脇差に垣間見えた気がする。

なお、この脇差は、昭和三十六年（一九六一）、秩父市指定文化財となっている。

また、刀身には、梵字の彫刻が施されている。刻まれた梵字は、研磨等により摩滅して判読が難しく、類似した種子も多い



秩父神社脇差(勝光・宗光)埼玉県立博物館 特別展「武歳ゆかりの武器・武具」図録より転載

が、表は一髻文殊の種子に最も近いように見られる。裏も明瞭ではないが愛染明王とみられる。この一髻文殊は、釈迦如來の脇侍である文殊菩薩のうち、髻を一つに束ねた菩薩である。文殊菩薩は、物事のあり方を正しく見極める力や判断力を意味する知恵を司る仏で、特にこの種子が意味するところは、増益、すなわち幸せの増進を司るとされ、武士が願う武運長久と子孫繁栄につながる。

一方、愛染明王も煩惱を排除し、延命息災や勝負必勝などに功徳があるとされ、直江兼続の銘文だけを残したのである。何故、長さを詰める必要があつたのかは現時点では不明である。ただ切先も少し詰めてあつたが、この刀が勝光・宗光の部分に銘のある茎を折り返し、この銘だけを残したのである。

兜の愛の前立てには有名である。かつて当社に奉納された太刀・短刀とも刀身に梵字の彫物があつた。この脇差の梵字、そして意味。さらに備前長船派の系譜を引く刀工の作という共通点がある。このことから本貫地を離れず秩父に生きた丹党大河原氏の心が、この脇差に垣間見えた気がする。

なお、この脇差は、昭和三十六年（一九六一）、秩父市指定文化財となっている。

また、刀身には、梵字の彫刻が施されている。刻まれた梵字は、研磨等により摩滅して判読が難しく、類似した種子も多い

## 文明の暴力から伝統文化をどう守るか

宮司 蘭 田 稔

令和の新時代三年目を迎えて早くも半年が過ぎ、いよいよ今年の正念場にさしかかったところ。世界文明の暴力に等しい新型コロナウイルスの感染力に一喜一憂しながら、これも世界に約束した東京オリンピックと同パラリンピックという人類最大のスポーツ祭典を成功裏に開催しようと、私どもも、われら日本の大名誉にかけて身構えているところでしょう。

それにもしても、今回のウイルス感染症のいわゆるパンデミック（世界的大流行）の様相はおそらく有史以来の前代未聞の規模と深刻さであり、とりわけその感染拡大の速度としたゞかさは、まさしく高度に発達した世界大の人的交流にも起因するものがありましょう。

要するに、現代人の際限ない利便性と物欲の追求に引きずられた文明の開発が、人跡未踏の自然界にも及んでその自足する生態系を破壊するなかで、ウイルスのような微生物の感染を引き起こすことになるわけです。

ところで、このコロナウイルスという微生物は、大きさが一万分

の一ミリで電子顕微鏡でしか見えない寄生生物のことです。コロナとは頭に被る王冠の意味ですから、球体の周りに冠の飾りのような突起物があつて、これが寄生するほかの生き物の細胞に侵入する働きをするようです。生物学者の多くは、生物学上、他の生物の細胞に寄生するばかりで自力で自己複製しないので生物ではないとするようですが、それでも他の生物細胞に寄生して生き延びるですから、やはり広くは生物の仲間でしよう。だとすれば、ウイルスは極小の生物といえども地球上に誕生したのが三〇億年前なのだそうで、人類の誕生がせいぜい二百万年に比べれば遙かに生物の大先輩ということになります。

かく申し上げる理由は、今回の新型コロナウイルスの感染大流行がきつかけになつて、今後将来に涉つて人類文明が暴走を繰り返すなかで変異ウイルスの発症が激甚化するとすればわらが子孫は、どう対処したらよいかを考えてみたいからです。そこでまず、肝心の私どもが、現在の感染症が進む新型コロナウイルスとその変異種たちをどう見做して対応するかが問われます。

すでにご賢察のことと存じますが、この際私どもは広くアジア人の共有する靈性文化の伝統に立ち還つて、微生物のウイルスとも何らかのスピリチュアルな共生への模索を求めるのです。この提案は、いささか突飛のようですが、実は



6月25日の茅の輪くぐり

現行の疫学的治療として実施されているワクチン接種がまさにその事例です。ワクチンは、ウイルスを殺すのではなく、ヒトや動物が感染しても免疫の働きをする抗原なのです。今回の新型コロナウイルスを根絶する治療薬はまだ開発されていませんが、既に世界中に蔓延したウイルスを絶滅することは不可能ですし、新たに発症する可能性のある別種のウイルスは自然界に数十万種生存しているそうですから、将来これらを不俱戴天の敵に回して制圧することを図るよりは、むしろ穏やかに地球に共生するイノチの靈性に祭ることを目指したらどうでしょうか。



「けがれなき子らの厄祓い」

本日、弊社が斎行いたします夏祭川瀬神事は、地域の古社にふさわしく旧暦六月十五日の陰陽道由来の川瀬の祓い神事に発し、中世に撰社・日之御崎宮の御祭神、須佐之男命の神威を以て悪疫退散の祈祷とする由緒正しい神事祭礼です。残念ながら新型コロナウイルスを慰撫するワクチン接種が祭礼奉仕の若連や小若たちに行き渡らぬなかでの神賑わいは自粛を余儀なくする事態となりましたが、来年度の川瀬祭こそは、晴れて埼玉県指定の無形文化財となつて例年に優る盛大な祭礼となることを期する次第です。



### 【表紙絵解説】

#### 切り絵 「武甲山と芝桜の丘」

作者加藤条義様は昭和19年12月6日に皆

野町下日野沢に鎮座する日野沢大神社の宮司新井武信の次男として生を受け、昭和38年春に秩父セメント㈱へ入社、本社設備管理業務などを経て定年まで勤務。その後は

関連会社に出向して今日に至る。

平成22年より趣味で切り絵創作を始め、平成24年には全国切り絵同好会へ入会、講師の認定を受ける。平成26年には東松山美術協会へ入会し理事を歴任、また平成24年より上野の森美術館「日本の自然を描く展」に毎年作品を出品している。主に自然風景や秩父の祭りをテーマとして創作活動を続けてお

り、今回の作品は春の羊山公園を描いたものである。因みに当社権禰宣の新井君美は作者の甥にあたる。

### 【表紙歌解説】

#### わが郷土の 鎮めと仰ぐ 武甲山 崩して人は 生きる資とする

弊社の有史以前よりの神体山である武甲山は、秩父地域の神社や多くの観音霊場での祭祀や信心の対象でした。

また、他方では全山石灰岩であつたが為に近代産業の有利な資源とされました。世界的にSDGs（持続可能な開発目標）が叫ばれる中、今回は郷土の未来の為、故柿堺欣一郎先生（平成十九年没享年九十二）の歌集『たびごころ』から選歌致しました。

## 令和二年例祭・初詣報告

権禰宜 綱野直久

新型コロナウイルス感染拡大対策は、具体的な施策を模索中で、当社も時局に応じ、試行を重ねながら取組んでいます。

### ◆参拝者受入れ対策



正月祈願臨時受付

参拝者との接触が最も多いのが神符札授与所で、飛沫感染対策として、授与所前面を透明ビニールシートで覆い、奉仕に当たる神職・巫女は、全員マスクで鼻口を覆っています。加えて神札・神守・御朱印帳・初穂料等の授受の際にウイルスが直接手指に付着しないよう、ビニールの手袋を着用し、また、要所にアルコール消毒液を弁備して参拝者に供し、職員自らも手指の消毒を励行しています。祈願等昇殿者については、十名の人数制限を設けて、拝殿内

に着座位位置を示し、間隔を保っています。また、斎主が代表で拝礼、参列者は列挙として、玉串拝礼を廃しております。

### ◆例大祭及び御神幸祭

十二月三日に斎行された例大祭の祭儀自体は平常通り執り行い、参列者は奉賛会長以下大総代及び大総代心得のみとしました。樂人も最小限の人員とし、その周囲は、透明ビニールの衝立で覆い、奏楽に伴う飛沫拡散に対応しました。御神幸祭については、本来御神体を奉遷する御神輿を唐櫃に替え、奉担者を減員、多人数による密接を避けました。また、二基の笠鉾及び四台の屋台の曳行を前日の宵宮も含め、これを控えて頂きました。更に、二十六町会が、御旅所



例大祭参進



御神幸祭御旅所

### ◆正月の対応策

一般参拝者については、例年設ける大賽錢箱前の鈴緒を撤廻し、参拝者の滞留軽減に努めました。祈願者については、受付・神札記名・案内方法を工夫し、三十分钟隔の祈願奉仕を保ちました。昇殿者的人数制限・着座位置・玉串拝礼については、前掲の通りです。

### ◆宮前隆一氏大総代就任



永く大総代をお勤め頂きました秩父市番場町の宮前洋一家のご勇退に伴い、ご子息で大総代心得の宮前隆一様に、当社大総代にご就任頂きましたのでご報告致します。

### ◆奉賛者御芳名簿(9) ご鎮座二〇〇年奉祝事業

令和二年十二月～令和三年六月迄

神社扱い  
五万円 小宮 清秀  
一万五千円 喜田 豊

### ◆富田孝大総代記念表彰

神社本廳は

設立七十五周年を迎え、当社大総代富田孝様が「神社の総代又は責任役員にして功労顕著な者」として記念表彰を受賞されました。

富田様は平成十二年より大総代に就任し、当社の護持運営にご尽力頂いております。

御旅所斎場祭の参列者も例大祭本儀に準じ限定しました。



## ◆聖火リレー報告

下郷歴史研究会様（浅見佳久会長より『秩父下郷の歴史と民俗』をご寄贈頂きました。）



## ◆図書寄贈



七月七日（水）午前十一時に当社をスタート地点として東京オリンピックの聖火リレーが行われました。

## ◆境内整備奉納



この度、田川警備保障株式会社池田君代様より境内整備につき奉賛金のご奉納を頂きました。



## ◆検温器奉納

当社御用部の業務に於ける結婚披露宴や宴会・その他催事等に携わる指定業者を以つて設立された組合である柞親睦会様（新井康夫会長）より、新型コロナウイルス感染対策として検温器一台のご奉納を頂きました。

## ◆計報

氏子青年会第十二代会長 山㟢仁様に於かれましては、病気療養中の所、令和三年四月四日ご逝去されました（享年五二）。

会長在任中には、創立三〇周年事業を盛大に挙行する等、数々のご活躍を頂きました。ここに衷心よりお悔やみを申し上げます。

## ◆秩父神社妙見講

自  
令和  
三年  
二月  
至  
令和  
三年  
七月  
四月  
六日  
至  
宮側講

五月  
九日  
鈴木建志講元外五十一名  
五月  
九日  
近戸講  
五月  
三十日  
中西貞夫講元外四百十二名  
五月  
九日  
山口忠次講元外百九名  
五月  
十九日  
斎藤眞一講元外百六十四名  
六月  
十三日  
辻正講元外百三十二名  
六月  
十九日  
山本和雄講元外百六十三名  
六月  
二十日  
根岸普一講元外六十八名

## 六月二十七日 下郷講

七月  
二日  
幸手妙見講  
浅見佳久講元外三百二十九名

七月  
三日  
幸宮神社 東秀幸宮司代表参拝  
小川裕司講元外八百八名

本年より  
近戸講山口忠次様、日野田  
講山本和雄様、下宮地講根岸普一様が新  
に講元に就任されました。どうぞ宜しく  
お願い致します。

## ◆柞乃杜神前結婚式報告

横瀬町横瀬  
群馬県富岡市  
熊谷市小江川  
大里郡寄居町  
秩父市中村町  
福島県いわき市  
福島県  
神奈川県横浜市  
大里郡  
深谷市西島町  
本庄市児玉町児玉  
鴻巣市堤町  
山中寛士・夏希様  
柿堺悠・通乃様  
野村頼崇・しづか様  
高橋洗丞・加奈様  
西塚昌洋・早織様  
寺山芳亮・虹花様  
石島政勇・玲子様  
新井浩文・秀美様  
浅賀修・摩子様

実習生 枝達	大総代就任 名譽総代就任	宮前 隆二殿
福川 健真	職員辞令 主典を命ず	宮前 洋一殿 (四月一日付)
(四月一日付)		

### ◆ 御社殿保存修理工事進捗状況

株式会社 小西美術工藝社



つなぎの龍完成状況

昨年の秋、1年以上姿を隠していた「つなぎの龍」や「雷神」等の彩色が施された彫刻が地元秩父の宮大工の手によって取り付けが行われ、東面の保存修理が完了し足場が解体されました。現在では、鮮やかに彩色が施された本殿幣殿拝殿の東側を皆様に御覧いただけます。また、本殿幣殿の建具に関しては、框や桟等が黒の漆塗り、板面は珍しい白漆塗りで仕上げられています。

現在は、西面が仮設足場によつて覆われ、西面の彫刻や鋳金具が取り外された状況です。そして破風板や懸魚の黒漆塗りが完了し、



幣殿建具の白漆

東面同様取り外された彫刻の調査が行われ、保存修理が進められています。「お元気三猿」も長年の垢を落し彩色が施されるまで一時の休息中です。

今回の西面の完成予定は、令和4年3月を予定しています。西面



鉛丹下塗り状況

が完了すると、本殿の背面と拝殿の正面に足場が架けられ、今度は「北辰の梟」及び「子育ての虎」が改めて彩色されるまで、しばし休息となります。

崇敬者の皆様、また参拝者の皆様のご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。引き続き安全に留意し作業を進めていますので、西面完成までお待ちいただけますようお願い申し上げます。

### ◆ 新人紹介



実習生 福川 健真

平成10年  
8月27日生

熊本県人吉

市出身

國學院大學神

道文化学部

卒

3年4月1日をもつて秩父神社実習生を拝命致しました。

大学を卒業したばかりでまだ右

も左もわからない状態であります

が、一生懸命神明奉仕に邁進する

所存でございます。

この度、ご縁がありまして令和3年4月1日をもつて秩父神社実習生を拝命致しました。

大学を卒業したばかりでまだ右

も左もわからない状態であります

が、一生懸命神明奉仕に邁進する

所存でございます。

私は、熊本県人吉市に鎮座いたします青井阿蘇神社の神職家に育ち、18年間神社に近い環境で過ごしてまいりました。また、大学では男子学生寮である「和敬塾」で生活していました。勉学に励む

だけではなく先輩・後輩との関わり、所謂「縋のつながり」を学ぶことができました。

これらの経験を十分に活かし、秩父神社に奉職させて頂いたことに感謝を申し上げるとともに、神様に失礼のないように精一杯励んでまいりますので、皆様宜しくお願い致します。

### 編集後記

ここに社報柞乃杜第六十三号をお届けいたします。

■工期の中間に当る令和3年度のご社殿保存修理工事は、西面の工事となります。西面には「お元気三猿」や「瓢箪から駒」など人気のある彫刻が多く存在します。予定では来年の3月には完成しご覧頂けるかと存じます。今しばらくお待ちください。

 ※ 本報の用紙は再生マット紙を使用しています。

令和三年(2021)七月二〇日

編集発行 秩父神社社務所  
〒360-0344 埼玉県秩父市番場町一-13  
TEL (0494) 22-10362  
FAX (0494) 24-15596  
印刷所 有限会社 拡文社 印刷所  
〒360-0411 秩父市東町二七一八